南紀支援学校　支援だより

令和２年４月１６日 NO.１

昨年度は、教育相談や巡回相談等で、たくさんの学校や先生方にお世話になりました。今年度の南紀支援学校もさらに相談活動を充実させ、地域のセンター的機能を発揮していき、先生方と一緒に子どもたちの支援に携わりたいと思いますので、よろしくお願いします。

県立特別支援学校では、全ての学校において教育相談等に対応するための体制を作り、各校が発揮できるセンター的機能を「８つの強み」として整理し、県内全域への普及啓発に努めています。詳しくは、和歌山県教育委員会ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

さて、県内では、コロナウイルス感染症への感染拡大防止のため、休校措置がとられています。本校では、この休校中に学校再開の準備として、新着任の先生方を対象に、少人数で研修を行い、子どもたちを迎える準備を行っています。

肢体不自由教育について

肢体不自由教育については、医療的ケアについて、てんかん発作について、重度重複の子どもたちの発達について等を研修しました。

例：子どもの発達段階について

- ９歳ぐらい～
- ４歳～９歳ぐらいまで
- １歳半～４歳ぐらいまで
- ６ヶ月～１歳半ぐらいまで

- 空間関係の比較ができた段階
- 大小などの比較の概念ができた段階
- 物に名前があることがはっきりした段階
- 物に名前があることが分かりかけた段階
- 物に名前があることが分からない段階

言葉とイメージの世界

見てわかる世界

触ってわかる世界

「太田ステージ」より

「発達支援と教示教具Ⅱ　子どもに学ぶ行動の理由　立松英子」より

摂食研修

子どもたちが安全に、美味しく、発達を促しながら、食事ができるように体験等も交えて研修を行いました。

例：口腔機能の発達段階と食物形態について

本校給食（ハヤシライス・野菜炒め）

（初期）

（後期）

（完了期）

摂食機能の発達段階と食物形態

「障害のある子どもたちのための摂食・嚥下障害対応ハンドブック」より

発達段階（練習期）	初期（口唇摂取～嚥下練習期）	中期（押しつぶし嚥下練習期）	後期（咀嚼練習初期～咀嚼練習期）	完了期（以降は咀嚼の力をつける）
食物形態	半流動食 すりつぶし食	押しつぶし食 粘稠軟固形食	軟固形食 刻み食	一口切り食 普通食
食物の特徴	どろどろ～ペースト状 粘り（粘稠性） なめらかさ（粒なし） 水分が多い	舌で潰せる程度の柔らかさ 粘り（粘稠性） 形がある	歯茎でつぶせる程度の柔らかさ、大きさを配慮 適度の粘り（ソース・とろみなどで配慮）	歯で噛み砕き、すりつぶせる大きさを配慮 咬み切れない物を除けば、ほぼ普通に食べられる

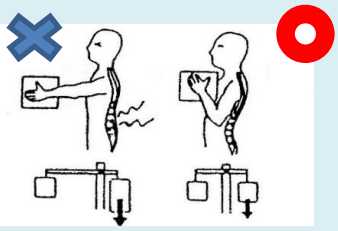
リフティング

リフティングとは直訳すると「持ち上げ」の意味がありますが、垂直な動きのことを表します。トランスファーとは、「水平に動かす動き」のことです。教員が児童生徒を車椅子から床面へ降ろしたり、抱き上げて乗せたりする時に、リフティングとトランスファーをうまく組み合わせた介助方法が理想になります。

～心掛けとして大切な事～

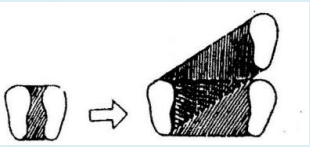
①密着した介助

できるだけ身体に近づけて持ち、背筋はまっすぐ伸ばして、重心が両足の中心に落ちるようにする。



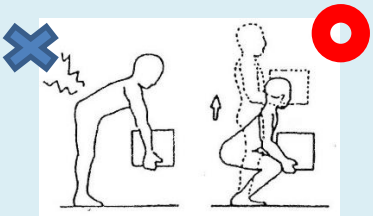
②介助姿勢が安定した介助

両足を開いて立つと、支持面が広くなり、左右への安定性が得られる。一歩の足を出すことで、より安定する。



③下肢の筋力を使う

しゃがんで、背筋を伸ばした状態から両下肢を伸ばして立ち上がる。

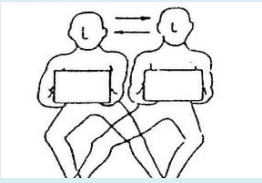


④身体全体を緊張させ、踏ん張ること

かけ声と同時に全身の筋肉を緊張させることで関節にかかる負担を軽くすることができる。

⑤一側の足から他側の足へ重心を移すこと

安定性を得るために下肢を開いて支持面を広く保ち、身体から物を離さないようにしながら、一側の足へ体重を移すことによって行う。



本校では子ども（幼児・児童・生徒）の身体的な障害や成長・学習について、また、就学・進路についての相談活動や情報提供を行っています。お気軽にご相談ください。詳しくは、本校ホームページをご覧ください。